旧幕臣の功績解説

静岡で徳川みらい学会「日本の根底を支えた」

旧幕臣の功績を解説する樋口雄彦教授＝16日午後、静岡市葵区

徳川時代の歴史的意義を研究・発信する徳川みらい学会は16日、2017年度の徳川家臣団大会・講演会（静岡新聞社・静岡放送共催）を静岡市葵区で開いた。国立歴史民俗博物館の樋口雄彦教授と東京都江戸東京博物館の落合則子学芸員が講演し、日本近代化の礎を築いた県内ゆかりの旧幕臣について解説した。

「旧幕臣と明治日本」と題して講演した樋口教授は、旧幕臣の田口卯吉が著した「日本開化小史」を引用しながら大政奉還の経緯を説明。明治期に活躍した旧幕臣について「官僚や軍人の世界で大きな勢力を築かなかったが、幅広い分野に有能な人材を散らして日本の近代化を下支えした」と指摘した。

落合学芸員は、幕臣の家に生まれた洋画家川村清雄の生涯を解説。さまざまな作品を示しながら、交流があった徳川宗家16代当主家達や勝海舟とのエピソードを紹介した。

徳川家幕臣の子孫や関係者を含む約400人が来場した。講演会に先立ち、18代当主の徳川恒孝さんが「徳川幕府の約250年間に文化が育ち、その結果として今の日本がある。旧幕臣は日本の根底を支えた人たちだった」とあいさつした。（経済部・高林和徳）

静岡新聞

©静岡新聞社　無断複製転載を禁じます